



FRIENDS

山梨県立かえで支援学校相談・支援部通信 第76号〈令和3年3月発行〉

♪「フレンズ」は、かえで支援学校の校歌(杉本竜一氏作)です。本校HPにてお聴きください

今年度は、コロナ禍の影響を受け、相談・支援業務においては例年同様の実施が難しい状況となりました。多くの予定を変更せざるを得ない状況下で、皆様の御理解と御協力をいただきながらセンター的機能の発揮に努めてまいりました。以下に、令和2年度のセンター的機能発揮状況を報告させていただき、次年度も本校の相談・支援活動への一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

令和2年度のセンター的機能発揮状況

相談支援の内容・支援先	幼稚園保育所 (幼児)	小学校 (小学生)	中学校 (中学生)	高等学校 (高校生)	その他 特別支援学校・ 病院・研究組織等
教育相談・学校見学 ※メール・電話も含む	29 (10)	15 (11)	43 (15)	6 (1)	1 (8)
訪問支援	4 (4)	16 (21)	8 (8)	0 (1)	0 (0)
研修支援	0 (0)	1 (2)	0 (1)	0 (0)	3 (6)
個別授業体験	2 (0)	4 (2)	5 (5)	0 (1)	0 (3)

*件数は、延べ数。()は昨年度の数字。

傾向その1 (教育相談・学校見学の増加)

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策として、オープンスクール・授業体験会の開催は中止とし、すべて個別の対応としたため、教育相談・学校見学の件数が増加しました。対象者は、来年度本校への就学、高等部受検を検討している幼児、児童、生徒とその保護者及び学校関係者となりました。

傾向その2 (訪問支援の減少)

各学校において特別な支援が必要な児童生徒への特性理解が深まるとともに、支援体制や学習環境の整備の取組が進んできていることもあり、訪問支援回数は減少しました。しかし、困難なケースについては複数回訪問することがありました。今後も児童生徒の障害の多様化に応じた教師のアセスメント力が重要になると思われます。更なる教師の専門性向上を図るため、PT等外部専門家を活用しながらセンター的機能の発揮に努めていきたいと思っております。

傾向その3 (相談内容の複雑化)

本校センター的機能発揮の相談対象は、知的障害・発達障害の児童生徒ですが、発達障害の二次障害や他の障害を併せ有する児童生徒の相談件数が増加し、相談内容が複雑化しています。適正な就学や進路につなげるため、今後もよりの確なコンサルテーションに努めていきたいと思っております。

傾向その4 (進路指導の多様化)

軽度の発達障害や不登校傾向のある児童生徒の相談が増加しています。学校と保護者との子供の捉え方の相違により、十分な合意形成が得られずに進路指導に悩む学校が多いと感じます。各学校においては、小学校から中学校へ、中学校からその先の進路に向けて、より適切な進路選択や各ステージの支援等の引継ぎが望まれます。

傾向その5 (継続相談や困難事例の増加)

家庭と学校との課題の共有が難しいケースや、関係機関と繋げることが困難なケースが増えています。家族支援を必要とするケースの増加は今後も見込まれ、関係者の役割分担が重要になってくると思われます。家族に寄り添った早期の対応及び継続的な支援ができるサポート体制が必要になると考えます。

PT等外部専門家の活用の実施状況(地域)

*回数は、延べ数。()は昨年度の数字。

◇心理士【本校配置】

小学校 2回(1回)
特別支援学校 6回(4回)

◇ST<言語聴覚士>【本校配置】

通級指導教室 4回(7回)
特別支援学校 6回(3回)
幼稚園 0回(1回)
合同学習会1回 1回(1回)

【他校からの派遣】

◇OT<作業療法士>
小学校 1回(保1回)
◇PT<理学療法士>
小学校 1回(0回)

令和3年度のオープンスクール・授業体験の予定について

令和3年度のオープンスクール・授業体験については、今後の新型コロナウイルス等感染症の状況を踏まえ、開催の有無等を検討していく予定です。

就学・進学の時節をお迎えのお子さんの保護者、学校関係者の皆様には、詳細が決まり次第、通知およびホームページなどでお知らせいたします。

御理解のほど、宜しくお願い申し上げます。



◆◆◆ この通信に関するお問い合わせ ◆◆◆



山梨県立かえで支援学校 相談・支援部

甲府市東光寺 2-25-1 TEL 055(223)6355 FAX 055(223)6356

E-Mail sodan@kaedey.kai.ed.jp